

登録コード	MA007800	開講年度	2026			
授業科目名	臨床推論入門				担当教員	田中 聡
英文授業名	Advanced Health and Physical Assessment				副担当	石田 高志・伊藤 真理子・石田 公美子・田中 竜介・丸山 友紀
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	集中・不定期	対象専攻／学年
講義室			授業形態	講義	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄					
	MS26カリ(医科学)・医科, MS25カリ(医科学)・医科, MS24カリ(医科学)・医科, MS23カリ(医科学)・医科					
	【医科学】基礎医学および臨床医学に対する基本的知識、技能および技術を修得し、自主的に検討することができる。				⇄	周術期の患者を正しく評価しリスクマネジメントが行える。
(2)授業の概要	小児から高齢者まで各ライフサイクルに伴うフィジカルアセスメントの知識・技術を習得し、術前外来から術後訪問にかけて患者の症状を正しく評価する方法を学ぶ。 周麻酔期看護に必要な知識・技術を医学科4年次「症候・症例からのアプローチと臨床検査」を中心に、4年次「TBL」の一部、さらに麻酔に特化した内容も追加受講する。 担当者の医学教育の実務経験を活かした講義が展開される。					
(3)達成目標（一般学習目標GIO）	周麻酔期にある患者の状態を正確に査定・評価できる知識・技術を習得する。					
(4)達成目標（個別行動目標SBOS）	・術前の患者の状態を正しく査定・評価し、術前外来の患者アセスメントに必要とされる正確な技術について説明できる。 ・術中の患者の状態を正しく査定・評価するために必要とされる周術期にある患者の変化をアセスメントし、対応するために正確な技術について説明できる。 ・術後の患者の状態を正しく査定・評価するための正確な技術について説明できる。					
(5)授業計画	医学科4年次開講「症候・症例からのアプローチと臨床検査」を受講する。また、夏季集中の「ユニット講義（社会医学・医療管理）」を適宜受講する。 また、以下の内容は麻酔科学の講義で補填する。 1. 周麻酔期に必要なフィジカルアセスメントとは 2. 術前外来におけるフィジカルアセスメント 3. Post Anesthesia Unitに必要なフィジカルアセスメント 4. 術後訪問におけるフィジカルアセスメント 5. まとめ					
(6)授業の進め方	講義，演習（シミュレーション） 医学科4年「症候・症例からのアプローチと臨床検査」を全36回受講する。時間割は医学科シラバス確認する。 ＊事前学習が前提となる。テーマは、その都度提示される。					
(7)履修上の注意・事前事後学習の内容	別途指示される。					
(8)成績評価の方法	プレゼンテーション，小テスト，レポート，出席態度などを総合評価する。					
(9)成績評価の基準	プレゼンテーションを50点、筆記試験50点とする。合計の60%以上を合格とする。 プレゼンテーションは、課題について①その問題を正しく理解できており，②問題にどのような課題があるのかを指摘することができており，③課題に対し既存の学説をもとに解決法を把握しており，④その上で自分の見解を提示でき⑤正しい方法で解決できることが望ましい。教員を感心させるレベルであれば90%、かなり応用ができるレベルであれば80%、応用ができる場合は70%、一通りできる場合は60%と判断する。筆記試験についてはの授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(60%)」，応用問題が解ければ「やや上にある（70%)」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（80%)」，例題よりもかなり難しい応用問題が解ければ「卓越している（90%)」とする。それらを合計する。その他の評価は別途提示する。					
(10)学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問、相談については適宜対応する。メールも可能。 麻酔科代表：masui@shinshu-u.ac.jp ・周麻酔期看護学生対象科目。 ＊内容が変更になることがある。					
【テキスト，教材，参考書】	医学科開講「症候・症例からのアプローチと臨床検査」で使用するテキスト。 そのほか、以下の書籍も参考になる。 ・Lynn. Bickly 著，福井次矢・井部俊子訳：ベイツ診察法，メディカル・サイエンス・インターナショナル ・医学情報科学研究所編集：フィジカルアセスメントが見える，メディックメディア					